

上部消化管内視鏡検査

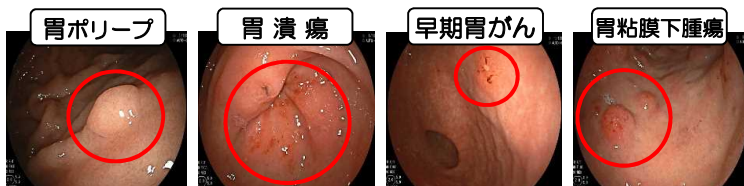
上部消化管（食道・胃・十二指腸）内視鏡検査はよく「胃カメラ」ともいわれています。

鼻または口から内視鏡を入れてリアルタイムで観察をします。各部位の粘膜を直接、モニターで観察できます。これにより、病変の大きさや形、色、出血の有無まではっきりとわかります。



上部消化管内視鏡検査は胃がんの発見だけでなく、消化管粘膜の様子や色などの変化から、炎症や出血、ポリープや潰瘍などの所見がないか観察しています。

《 胃部異常所見画像の一例とその解説 》



所見	解説
胃ポリープ	胃粘膜が部分的にイボの様に隆起している状態のものの総称です。
胃潰瘍	胃潰瘍は胃酸による消化機能によって自身の内壁を消化してしまい、粘膜欠損が粘膜下の組織にまで達してしまうものです。ピロリ菌が強く関与しているといわれています。
早期胃がん	胃の固有筋層に達していないがんを早期胃がんといいます。胃がんは胃粘膜上皮から発生し、さらに進行していくと固有筋層、漿膜下層、漿膜へと胃壁を浸潤していきます。これが進行がんです。
胃粘膜下腫瘍	胃の粘膜上皮より深部（粘膜筋板、粘膜下層、固有筋層）に発生するこぶのような病変のことです。胃粘膜下腫瘍は良性から悪性まで様々です。
逆流性食道炎	胃の中の酸性内容物が食道に逆流するとその内容物に含まれた酸が食道粘膜を傷つけ、むねやけなどのほか、色々な不快感を感じます。この状態を“逆流性食道炎”といいます。